



やっぱり行っておきたいメジャールート

---

## 谷川 一ノ倉沢烏帽子沢奥壁南稜

---

大田原

【日時】 2009年6月28日(日)

【メンバー】 L飯田、大田原

以前は「南稜何度も行ってるからもういい。誰か他の人と行きなよー」と言っていた飯田さん。今年は気が変わられたのか?連れて行っていただけることになり、うれしい限りだ。

今回は国境稜線へ抜ける計画。私は抜けるのが初めてなので、一ノ倉の概念を掴むいい機会だ。この時期の一ノ倉沢は混雑が予想されるため早出としたものの、明けてみれば駐車場はガラガラ。雪溪の状態が確認できるように、ヘッドンの要らない明るさになってからの出発としたが、我々の前に先行パーティーはいなかった。雪溪は一ノ沢出合から始まってテールリッジまでしっかりしており、楽に移ることができた。雪溪があるとは思えないような生暖かい風に当たり、大汗かきながら南稜テラスへ。後続は1パーティーのみのものである。中央稜には2、3パーティー、凹状岩壁に1パーティーが見えた。

～1P目：飯田さんリード～

刺してくる小虫がうざったらしい。飯田さん曰く「南稜で一番緊張するピッチ」。岩はしっかりしているものの、確かにチムニーはちょっと緊張する。

～2P目：大田原リード～

短いピッチ。草付き手前まで行く。特に緊張するところはない。

～3P目：飯田さんリード～

飯田さん曰く「登山道」のピッチ。

～4P目：大田原リード～

ハング下を左に回りこみ、ピッチを切る。次のピッチを考えると、もう一段上がったところで切れればよかったかも。

～5P目：飯田さんリード～

飯田さんは左の凹角でなく馬の背リッジを辿ったのは初めてだったとか。ロープの長さが足りず、リッジ上部でピッチを切る。岩の隙間に謎のザイルが2本、きれいに束ねて置いてあった。何だろう??

～6P目：大田原リード～

リッジ上部を経て最後のフェース。フェース手前にはチョークが置かれていた。使わ

なかったけど、「お使いください」ってことだったのかな?終了点から2歩手前でガバを失い一步をためらう。もう一步左を行けばいい手があったような。

あっという間に南稜は終わってしまった。これなら同ルートを下降し、中央稜も登ってから帰るという計画もよかったかもしれない。いやいや贅沢は言わず、予定通り国境稜線を目指そう。草付きスラブやルンゼ、脆い岩場を經由し、笹を掻き分け進む。天気は高曇りだが明るく、周囲をよく見晴らせた。飯田さんは3月に行った一・二ノ沢中間稜や来シーズン目指すらしい一ノ倉尾根の眺めにご執心の様子。私もいつか行けたらいいなあ。いや、怖いから行けなくていいか。。しかし本当に、南稜のルート自体はほんの一部で、出合から山頂まで、高低差の大部分はアプローチと国境稜線までの登りが占めている。結局終了点以降は一度もザイルを使わなかったが、一ノ倉岳まで一時間以上を要した。

【グレード】3級上 IV+

【行程】一ノ倉沢出合(4:20)～南稜テラス(5:30/40)～終了点(7:35/55)～一ノ倉岳(9:05/15)～肩ノ小屋(10:20/50)～マチガ沢出合(12:30)

【地図】茂倉岳、水上



【テールリッジまでしっかり雪渓が残る】



【終了点間際の飯田さん】